

京丹波町新庁舎建設に係る技術支援：組立柱曲げ試験の実施

京丹波町が令和3年8月の完成を目指し、建築を進めている新庁舎（木造・2階建）では、中・大規模の木造建築に必要な部材として「組立柱」が採用されています。

組立柱は、一般的に流通している平角材2本をビス留めし一体化したもので、地元の事業者が木材の伐採から製材・加工、建築まで取り組むことができ、地域材の利用拡大にも寄与します。

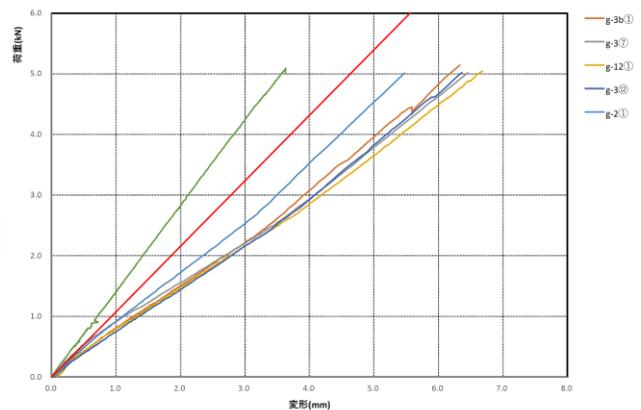
当センターでは、構想段階から効率的な加工法の開発や耐火試験に協力しており、この度、非破壊で組立柱の強度試験を実施し、全ての組立柱が建築に必要な曲げ強度を確保できていることが確認されました。

林業・木材産業を振興するため、引き続き、京都府立大学・京都大学など関係機関と連携し、モデル事例となる木材利用の取組を支援していきます。



曲げ試験の実施の様子

組立柱に荷重を加え、変形量を測定



議会棟 2-220x240 スギ

試験測定結果

- ・縦軸が荷重(kN)で横軸が変形(mm)。
- ・傾きが大きいほど、強度が高い。
- ・用途により必要な強度が異なり、今回はすべての組立柱が合格した。